

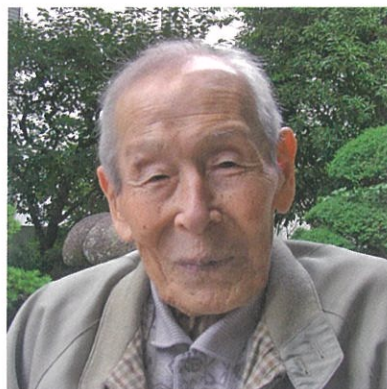


ご入居者の声



特養ホーム

さいとう
齊藤 登 92歳



私は昭和5年に6人兄弟の三男として富山県で生まれました。その後は親の仕事の都合などで小樽、蒲田、藤沢、鎌倉、衣笠と移り住み、現在に至ります。

両親は共に大学教授で、職業柄転勤も多く、時代の波にも揉まれてきましたが、幼少の頃は経済的にも比較的楽に生活することができました。日中戦争が始まると、親の仕事の関係上、世間からの風当たりも厳しくなり、少年期から青年期はとても苦勞しました。現在入居されている皆様も、年齢的に戦争を体験されてきた世代の方々が多く、たくさんの方々の苦勞を乗り越えてきたことと思えます。今まで生きて来れたことに本当に感謝です。

ここへ入居に至るまで、過勞による背骨の骨折で4カ月間入院していました。完治には2年かかるとの診

断で、当時は食事もお粥となり、思うように体を動かすこともできず大変苦勞しました。

共楽荘に入居してからは、徐々に形のあるものを食べることが出来るようになり、今ではトイレや自分の部屋でも、ある程度自由に移動することができるようになりました。

90歳を少し過ぎましたが、自分のことは出来る限り自分でするように心がけ、もう少し頑張っていきたいと思っています。

ここの生活で驚いたのは、夜の長いことです。私は習慣的に昼間寝ることはほとんどなく、夜も5時間位しか眠りません。眠りが浅いことも多く、夜中に目がパチクリしていることもあります。病気ではありませんので、あまり気にしないでくれると助かります。

今の生活には満足していて健康状態も良好です。これからも、昔を思い出しながら記録をつけたり、たまには他のフロアに入居している妻と話をしたり、のんびりと生活ができたらいと思っています。

介護職員さんには、これからもご迷惑をおかけすると思いますが、多少のことは大目に見て下さいますようお願いいたします。

私の現在の健康があるのも、介護してくれている共楽荘職員皆様のおかげです。

また、共楽荘に入居できたこと、本当に感謝しています。ありがとうございました。

養護老人ホーム

やの
矢野 ツギ 86歳



栃木県那須郡小川町で6人家族の次女として生まれました。小川町は、鮎釣で有名な中川が流れています。幼少期は、親戚がヤナ場を作り、鮎をとって商売していたので夏はお手伝いをしていました。冬は、豪雪地帯なので囲炉裏で暖を取って過ごしていました。

中学卒業後、横浜の三菱造船所に就職しました。仕事は、いろんな国の外国人の方に作業に必要な物品（つなぎ・安全靴）を手渡す仕事をしていました。

その後、姉から一緒に住まないかとの提案があり同居するために横須賀に来ました。

共楽荘に入る前は一人で暮らしていました。入浴中にドアが開かなくなり、窓から脱出しようとしたところ、足を滑らし転倒、腰椎圧迫骨折をしました。

その後リハビリを経て帰宅しましたが、一人での生活は不安もあり訪問介護を依頼していました。ヘルパーの方から、老人ホームの施設があることを紹介され、共楽荘養護老人ホームにお世話になっていました。

ここの生活は、一人で暮らしていた時よりも食事や入浴の部分での不安も少なく安心して生活を送れています。施設生活では、日常では味わえないような行事も多く、楽しんで参加させて頂いています。

入居後も転倒し腰椎圧迫骨折を患いましたが、施設で歩行ができなくなるのは嫌なのでリハビリを懸命にし、シルバーカーで歩行できるまで回復しました。退院後も歩行に関しては不安もありましたが、職員の皆様に見守りや声掛けなど親切にして頂き感謝しています。

今後も、体調を崩さず健康に長生きたいです。

